

# 第五回國会 労 働 委 員 会 議 錄 第 二 号

昭和二十四年三月十九日

角田 幸吉君 三浦寅之助君

山口六郎次君

前田 種男君

吉武 恵市君

が理事に当選した。

春日 正一君

昭和二十四年三月二十六日(土曜日)

午後一時五十五分開議

出席委員

委員長 倉石 忠雄君

理事春日 正一君

理事三浦寅之助君 理事福永 健司君

佐藤 親弘君

塚原 俊郎君

船越 弘君

柳原 三郎君

木下 榮君

川崎 秀二君

島田 末信君

伊藤 憲一君

大橋 武夫君

篠田 弘作君

鈴木 正文君

出席政府委員

労働政務次官 山崎 岩男君

委員外の出席者

専門員 濱口金一郎君

出席國務大臣

労働大臣 鈴木 正文君

出席政府委員

労働政務次官 山崎 岩男君

○倉石委員長 御異議がなければ、福永健司君を理事に指名いたします。

○春日委員 この議題に入る前に理事

より提案理由の説明を求めます。鈴木

労働大臣。

三月二十四日

委員山口六郎次君、鈴木幹雄君及び

福田繁芳君辞任につき、その補欠と

して佐藤親弘君、島田末信君及び東

井三代次君が議長の指名で委員に選

任された。

同月二十六日

理事山口六郎次君の補欠として福永

健司君が理事に当選した。

三月二十四日

公共企業体労働関係法の一部を改正する法律案(内閣提出第八号)

○倉石委員長 公共企業体労働関係法の一部を改正する法律案

を改正する法律案

を改正する法律案

を改正する法律案

を改正する法律案

の審査を本委員会に付託された。

本日の会議に付した事件

理事の互選

公共企業体労働関係法の一部を改正する法律案(内閣提出第八号)

○倉石委員長 これより会議を開きま

す。

前会において保留いたしておりまし

た理事一名の互選を行います。前会に

いたしました。川崎秀二君を理事に指名

いたします。

次に理事山口六郎次君が委員を辞任

いたされまして、理事が欠員になつて

おりますので、理事の補欠選挙を行わ

なければなりませんが、これは委員長

より補欠理事の指名をいたすことによ

り異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○倉石委員長 御異議がなければ、福

永健司君を理事に指名いたします。

○春日委員 これがより公共企業体労

働関係法の一部を改正する法律案を議

題いたします。

審議に入るために先づて、まず政府側

より提案理由の説明を求めます。鈴木

労働大臣。

三月二十四日

この法律案の提案理由の御説明を申し

上げました。何とぞ御審議の上、すみ

やかに成立いたしますようお願い申し

上げます。

○倉石委員長 御質疑はございません

の方に言つておいたと思うのですが、それを説明せずに、いきなりそういうふうに入られてしまつて、あとから説明されても何になりますか。議事に入

る前に説明されれば、それに従つてわ

れわれも発言の機会を考えなければな

らぬが、そういう形でやられてしまつては、発言の機会がなくなるようなこ

となるのです。それを無視して、そ

れわれも発言の機会を考えなければな

らぬ形でやつて行くことはけしから

ういう形でやつて行くことはけしから

ねと思うのです。

○春日委員長 ちょっとと速記をとめて……。

〔速記中止〕

○倉石委員長 速記を始めてください。

○春日委員 ここに公共企業体労働法

の改正といふ案が出て来たのでありますけれども、これは四月一日にやること

とがその後の事情でできなくなつて、

六月一日にやることにかえようという

わけであります。しかし吉田内閣の施

政の方針、予算、こういうものがまだ

はつきり出てない状態で、ただこの日

にちを延ばすということを言つて來ても、そういう場合、とにかくわ

れわれは賛成しました、あとでまたか

わつて來ました、またかえました、こ

れでは無責任になる。そういう点につ

いて、政府の一般方針、あるいは労働

行政に対する方針が出来ない前に、どう

いうものを審議するということは、一

体どういうところから來ておるか、そ

の点伺いたい。

○鈴木國務大臣 公共企業体の労働関

係法の方は、これはまつたく受身の形に立つておるのであります。その本

體となるべき鉄道の公社、それから專

賣公社という方が、事實上、行政的

に、時間的に予定の通りに行かない。

もとより最初からそれを対象としてつ

くった法律でありますので、それをこ

こにも書いてありますようにあわせて

六月一日に施行を延ばすといふだけ

の、ごく簡単な、ほかに何も他意のな

い理由だけであります。

○春日委員 重ねてお尋ねいたします

が、他意のないことはもちろんわか

る。法案の面から見れば非常に簡単な

問題だけれども、これを延ばす延ばさ

ぬということをきめるのは、今度の國

会ではかの方からきまつて來ること

で、それがきまらぬ先に、これを延ばさ

ぬ延ばさぬということをきめることは

妙な話になりませんか。

○鈴木國務大臣 御質問の意味がよく

わかりませんが、もしこの対象になつ

ておる國有鉄道その他の關係を指して

おられるのでありますならば、同時に

審議しておるのであります。それには時

間が非常に迫つて來たから、同時に

別個の委員会にかかるつておる、こうい

う形になつておるわけであります。

○伊藤(憲)委員 この労働委員会では

大体理事会でもつて一切の審議をして

なるべく一般討議にかけない方針だと

いうふうさがあるので、そういうう

事実はないですか。今の問題でも、こ

れは何も変哲もないことだと言われ

る。事實上そうだと思いますが、し

かしり、つを言へば、なぜ公共企業体  
関係法を延ばさなければならぬかと  
いうことの御説明を聞いて、その上で  
審議しなくちやならないのだが、それ  
がない。大体常識的に言つてこれはい  
いと思う。しかし一般的にそういうこ  
とをして、われわれ議員の審議権を封  
じてしまうということが事実だとする  
と、われ／＼の方としても考へなくち  
やならぬ。そういうことがあるかない  
かということをここでお伺いしたい。  
○**倉石委員長** お答えいたしますが、  
たゞいま伊藤君のお尋ねのようなこと  
は全然私はないと思います。理事会で  
は大体その委員会の運営についての下  
相談をするだけでありまして、一般審  
議を理事会でやるというふうなこと  
は、ほかの委員会にもないと想います  
し、この労働委員会でも、さようなこ  
とを考えておるのが理事会ではないの  
でありますし、その日の委員会の審議  
をどういうふうに進めて行こうかとい  
うことの、各党派を代表されておる理  
事のいわば懇談会でありますから、今  
伊藤君の言われたのは誤解だと思いま  
す。もちろん委員会において十分審議  
せらるべきものだと思います。  
○**伊藤(憲)委員** それでは今後も、十  
分審議する、そういうことでやつて  
いただきたいと思います。

おるというふうに傳えられておりますので、われへん委員会としても、できだけ早く一般労働政策についての政府の意向も聞きたいし、その他研究もしたいと思いますから、定例になつておる委員会開催日に、なるべくすみやかにこれを開催して、一般労働政策についての質疑を始めよう、こういうことを先ほど理事会でお話いたしたようなわけでありますと、今日は先ほどのお話を通りに、公共企業体労働関係法の期日延期のことについて御審議を願いたいと思います。

○春日委員 先ほど私言つたのは、そういうものの進行状況です。一般労働行政の方針はこの次の水曜日にお聞きをする、それで私は了承したのだけれども、しかし今日まで労働省が考えておられる法案の進行状態、そういうのを聞かしてもらいたい、というふうに話しておいたわけです。

○倉石委員長 それはどうでしようか。さつきお話しをしましたように、この次の定例の委員会に、われわれの方からあらかじめ政府に要求をしておいてそれをやる。それから移つて行こうという先ほどお話しでできたわけですが、そういうふうにしていかがでしようか。

○春日委員 それは今までの状態で公聽会を開いて、大体こういうことはここまで行つておるというような点です。それでいつごろ出せるという見通しがあれば、そういうこと。それは大して長い時間かかることでもないし、われの／＼準備の関係もあるし、ひとつ聞きたいと思います。

○**春日委員** 大体延ばす延ばさぬといふ問題は簡単であります、が、首相の施政方針演説もやらぬ、あるいは労働行政方針に関する演説もやらぬということで、ただこうなるだらうといふようなあてつけぼうでわれくがこれを審議して、延期するがよろしいといふようなことはきめられぬと思ふ。だからこれはこの際撤回してもらいたい。

○**倉石委員長** 川崎秀二君。

○**川崎委員** 公共企業体労働法の施行期日の問題に対しましては、政府の提案通り賛成するものでございますが、私はこの際労働委員会を通じて政府に對し、施政方針の演説をすみやかに行なうという要望を付しつつ、本案に賛成をいたしたいと思うのであります。

公共企業体労働関係法の一部を改正する法律案の今回の提案は、申すまでもなく、ただいま労働大臣から説明がありました通り、日本專賣公社法及び日本國有鐵道法の施行期日を六月一日に延期をする、これと符節を合す關係があるので、四月一日を六月一日に改めるということであります。前日に改めるということであります。前國会において提案になつた公共企業体労働関係法には、私ども民主党も賛成をいたしました。日本経済再建のために公共の労働者がいかにあるべきかといたることは、今回の公共企業体労働関係法においてきわめて明確にうたわれておる。この法律があくまでも公共事

業の福祉を守るために、また労働者の地位を向上するため、守らなければならぬ法律であるということは、明白な事実であります。従つて私は本案に賛成をするものでありまするけれども、近來議会再開以來、まことに遺憾なことは、政府が予算案に閣連をして、関係方面の内示案がいまだに下らないということに遁辞を設けて、施政方針の大綱を明示する機会を延期しておる事実であります。昨日私どもの同僚である椎熊三郎君は、自由討議に名をかりて、この問題についてわが党の立場を鮮明にいたしておりますけれども、傳え聞くところによりますと、すでに内示案は、池田大藏大臣に対してはあつたようになっております。民主党は自由党は先ごろの選挙において、取引高税の撤廃、米麦の供出後の自由販賣、あるいは統制経済の大幅撤廃、さらには運賃の値上げはこれを行わないという政策をもつて、選挙に大勝を博したこととは、私どもまことにけつこうなことと存じますけれども、しかしながら、この公約と経済九原則との関連の調整ができるない、ということのためには、施政方針の演説が遅れておるということは、非常に遺憾なことではないか。これは多少政治論になるかもしけれども、民主自由党としては、この際天下に潔くあやまつて出直しをするか、あるいは政党そのものとしての立つておるとさえ、われくは思うのであります。が、これは私見であります、法案とは直接關係がないので、省略をさしてもらいます。しかしながら施政方針の演説を一日も早く聞きたいということは、全國民の要望であります。

までの、労働委員会を通じてすみやかに施政方針演説をしていただきたいということの要望があつた、關係委員会からそういう発言があつたと、いふことを、委員長において議院運営委員会の方にもお取次を願いたいということを條件として、本案に賛成をするものであります。

○**倉石委員長** 三浦寅之助君。

○**三浦委員** 本案につきましては、先ほど労働大臣から説明の通り、きわめて簡単な法案であります。ことに本案が、日本專賣公社法及び日本國有鐵道法の施行と同時に実行なければならぬことは当然なことであります。これらが審議されて延期されることの情勢にあることを考えます。際において、この法案は当然原案通り賛成すべきだと思うのであります。原案に賛成いたします。

○**倉石委員長** 討論は終結いたしました。これより採決に入ります。本案について、原案通り可決することに御賛成の方の御起立を願います。

〔賛成者起立〕

○**倉石委員長** 起立多数。よつて本案は可決確定いたしました。なお報告書の作成は委員長に御一任を願います。

○**倉石委員長** 次に國政調査承認要求についてお諮りいたします。まず調査する事項は、労働事情に関する事項、調査の目的は労働組合法及び労調法改正に関する諸調査、調査の方法は關係方面よりの意見聴取、資料要求等、調査の期間は本会期中としたことに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○倉石委員長 御異議がなければ、さ  
よう決定いたしまして、諸般の手続を  
行いますから、御了承を願います。  
それでは本日はこれにて散会をいた  
します。次会は公報をもつてお知らせ  
いたします。

午後二時十六分散会

(参照)

公共企業体労働関係法の一部を改正  
する法律案(内閣提出)に関する報告  
書

(都合により別冊附録に掲載)

第一類第十五号 勞働委員会議録 第二号 昭和二十四年三月二十六日

昭和二十四年四月一日印刷

昭和二十四年四月四日発行

衆議院事務局

印刷者 印 刷 局